

## 【特記】

それぞれ夜勤の職員は突然の調査に「びっくりした」という言葉はあっても、嫌な顔もせず質問に答え、いつもの変わらない行動をされており、「さすがだ」と感じた。全体として「すべての人を自分の親だと思って・・・」という施設理念に基づいた支援であることを確認することができた。

夜勤者1人に「天雲会」の理念、基本方針を尋ねると明確に答えることができた。

夜勤体制は12ユニット（全室個室化）で6人配置しており、コンプライアンスは守られていた。（ショートユニットは1人体制）

居室は、ほとんど臭いを感じなかったが、共有トイレ（2部屋に1ヶ所）の一部は掃除が行き届かない状況が確認され尿臭を感じる場所もあった。（写真あり）

排泄介助などで、部屋に入っている職員と利用者の会話は非常に穏やかで、やさしく丁寧語を使って対応していた。時には二人の笑い声も聞こえてきて、信頼と安心感がある関係を築いていると思えた。

桜町においては、居室間の距離が離れているため、2ユニットを1人の夜勤者で対応するのは、見守りに困難な状況が生じるのではないかと危惧される。ハード面を変えることは困難だが、全体でフリーの夜勤者1人を配置することが可能であれば負担はかなり軽減するものと思われる。（しかし、人材不足の中、基準どおりの夜勤者数で精一杯なことも理解できる）

剥き出しのオムツが、整理棚の上に置かれている状況は、前回多く見られ、指摘事項であったが、今回は大きく改善され、1ヶ所のみであった。

居住環境において、本町は、前回の調査時には引っ越ししたばかりで、これから取り組む段階であったが、今回、龍生園の生活空間、馴染みの空間を築いていこうとする努力を感じることができた。ただ、現在、ユニット間の差が大きくなってきており、質の差につながらないように注意する必要がある。また、食堂の食卓テーブルには、椅子がなく、家庭の団欒の場でもある食卓の雰囲気から遠ざかっているように感じられた。

前回は、お風呂場と脱衣所間の壁にカビが広がっていたが、無くなっており改善されていた。

食堂以外の談話コーナーの使い方や壁の使い方は、まだまだ工夫の余地があると思われる。

拘束の疑いがあると思われるガードがベッドに取り付けられているところが数ヶ所あった。素材は柔らかく降りようと思えば降りられるものだったため、「拘束」と判断するのが難しいが、形上の第三者からみると明らかに拘束と判断されてもおかしくない状態だったため、施設長に早急（調査終了後）に確認し、拘束についての考え方と対応について協議し、施設長の判断で、翌日には取り外され、拘束の原則について、職員に文書を配布するなど周知徹底を図ることができた。

今回は、事実上ガードの素材が柔らかく利用者がベッドから降りようと思えば降りられることと龍生園の早急な対応で、拘束ではないと判断した。

事業報告書は、玄関を確認したが閲覧できるように置かれていなかった。情報開示の義務があるため、玄関にあるマガジンラックなどに置いて外部の方や家族がいつでも閲覧できるようにする必要があるので対応してください。

冷蔵庫はやや掃除が行き届いていない状況が比較的多くのユニットで確認されたので、再度、清潔が保持できるよう体制を見直す必要がある。

ごく一部の職員は、「笑顔とあいさつ」などの強化の必要性を感じる場面があった。龍生園のサービスマナーが伝統として守られるように、今のうちに教育指導方法のあり方を世代が変わっていく中で見直すことも必要だと感じる。ただ、桜町では、深夜に車椅子から降りて、床を這っている方がいて、職員が車椅子に座るかソファで休んでもらえるように促していたが、すぐに動き出す状態であった。他の利用者の対応をしながらも、その動きを見守っている職員の姿は、評価者から見て、大変だろうと思ったが、職員は終始穏やかにやさしく声かけをしていた。職員の対応に心から敬意を表し、感動する場面であった。

ショートステイは、16名定員のうち、その日は8名の利用であった。1ユニット分空いており、社会資源として有効に活用できるよう、対策が急務だと感じた。

ショートステイの男性利用者が「家に帰る」と言って、歩行器で歩き続けている状態が明け方の4時半くらいまで続いていた。夜勤者1人で本当に大変な中、しっかりと見守りやさしい声かけを続けながら落ち着いてもらうための関わり方をさぐっている様子を評価者は本当に頭が下がる思いで見ている。評価者2人も気になり何度かショートステイを伺った。4時半ごろに行ったときは、ソファの上で横になってぐっすりと寝ている様子で、毛布がかけられており、職員の心遣いに心温まった。また、他の人の介助やコールに対応する場合は、上の階の人の協力も得られていた。

全体的にサービスの質の水準は保持されていた。龍生園の夜勤職員の言葉や態度は誠意があり、人間に対する心からのやさしさと温かさが感じられる場面も多くあり、利用者が安心して休める対応を確認することができた。

職員の人間性の高さを感じ敬服します。